

GIGA スクール構想に基づく ICT 教育に向けた環境整備

～大型提示装置の導入～

可児市教育委員会

1 はじめに

「学校は本来楽しいところ」「学習等に一生懸命取り組んで、できて・分かって楽しい」「仲間と一緒に活動することが楽しい」と喜びを感じた時に子どもたちは“笑顔”になり、教師も笑顔になります。可児市では、このような「笑顔の学校」を学校教育の目指す姿として各種施策を行っています。

昨今の GIGA スクール構想に基づき、ICT を活用した学習活動の充実などを図るため、下記 ICT 機器の整備を行いました。その中でも、大型提示装置は ICT を活用した効率的な授業に寄与しています。

2 GIGA スクール構想に基づく ICT 教育に向けた環境整備

(1) ICT 機器整備状況

令和 2 年度から令和 3 年度にかけて大型提示装置（プロジェクター、液晶モニター）、タブレット P C、高速大容量の通信ネットワーク整備を計画的に行いました。

液晶モニターについては、令和 2 年 4 月から 5 月末にかけて 37 台、令和 3 年 1 月から 3 月にかけて 27 台を配備し、現在は各小中学校の特別支援教室（小：46、中：18）において活用しています。

プロジェクターについては、令和 3 年 3 月から同年 8 月末にかけて 253 台配備し、各小中学校の全普通教室（小：178、中 75）において活用しています。

タブレット P Cについては、令和 3 年 3 月までに全児童生徒及び教職員に配備し、日頃の授業や学校生活で活用しています。

(2) プロジェクター導入経緯

①電子機能付き黒板を合計 60 台導入【平成 21 年度】

当該機器は、重く大きいため、教室への出し入れに手間取ったり、児童生徒による取り扱いが困難であるなど日常的な活用が広まりにくい状況でした。また、電子黒板機能の精度も低かったため、学校によっては電子黒板機能を取り外して映像を映すモニターとしての活用のみになっていました。

②教室天井吊下げテレビの撤去【平成 30 年度】

重量物の教室上部吊下げ方式の危険性を鑑み、児童生徒の安全確保のため、長年の懸案事項であったテレビを全教室から撤去しました。これにより、教室におけるモニターが無くなり、映像視聴による学習（教育テレビやビデオ上映等）が容易ではなくなりました。

③液晶モニターの導入【令和 2 年度】

学校現場から各教室への液晶モニターの設置要望を受け、また、GIGA スクール構想の推進による ICT 化に対応するため、液晶モニターの導入を検討し、教室での見易さ、扱いやすさとのバランスから、55 インチの大型モニターを小学校高学年の普通教室を中心に 37 台導入しました。

当初、可動式という利点を考慮しキャスター付液晶モニターを導入しましたが、学校によっては廊下のスペースが狭く、教室外に置けないなど活用にあたっての課題が生じました。そのため、改めて学校の意向を調査した結果、約半数の学校において固定式の大型モニターを望む声や、もう少し大き

な画面で ICT を活用したいという声が多くありました。

④全普通教室にプロジェクター253 台導入【令和2・3年度】

県立高校において令和元年度に黒板(同時にホワイトボードに変更)へ投影するタイプのプロジェクターが全教室に固定設置され学習効果をあげているなど、県や他市の動向に注視する中で、ICT 導入の計画当初よりも、プロジェクターの本体価格が大きく下がっていることが分かりました。

これらの状況や学校からの要望を受け、プロジェクターか液晶モニターのどちらを導入することが有益なのかを教育委員会事務局内において改めて検討しました。キャスター付液晶モニター、固定式大型モニター、それらに電子黒板機能を後から取り付けた場合のそれぞれのメリット・デメリット、最新のプロジェクターの機能や学校現場における活用のしやすさ、費用面を総合的に勘案した結果、固定式のプロジェクターが最も適していると判断し、全普通教室へのプロジェクター設置を決定しました。

⑤全特別支援教室に液晶モニター64 台導入【令和2・3年度】

特別支援学級は可動式の液晶モニターを設置しても比較的手狭にならないことや、子どもたちの学習形態に応じて場所を移動する必要があることから、令和2年度に導入したキャスター付液晶モニターを活用、追加購入し、全特別支援教室に設置しました。

3 導入の成果と課題

- 教育研究所がプロジェクターの使い方講習を設置した学校から順次実施し、活用方法について周知したことにより、迅速かつ円滑なプロジェクターの活用が可能となりました。

現在プロジェクターの利用頻度は非常に高く、コロナ禍で全児童生徒が集まったの全校集会が困難な状況下でも、プロジェクターの活用によりリモートでの全校集会が可能となるなど、授業だけでなく学校生活において欠かせないものとなり、各学校で工夫された ICT 活用が進んでいます。

- プロジェクターを活用することで、より効果的な授業を行うことができることから、学校現場からは特別教室へのプロジェクターの導入を求める声が多く挙がっています。
- 導入した ICT 機器が不具合なく使用できるように管理体制を整えることや、持続的に予算確保を図る必要があります。そのため、生じたトラブルや不具合の状況・対処法をマニュアル等にまとめ、教育委員会・学校で情報共有し、授業に支障をきたすことなく早期の対応ができるように連携しています。

4 終わりに

児童生徒が「できて・分かって楽しい」と感じられ、笑顔になる“もと”の一つとなる ICT 教育に必要な ICT 機器を令和2年・3年度で導入完了しました。情報があふれる今の時代、子どもたちは必要な情報を選び、その情報をうまく活用していく力を養う必要があります。学校で直接指導をしている先生からは、「タブレット PC などが導入されて学習環境が大きく変わっていますが、子どもたちはとても柔軟に対応しています。将来、社会を担う子どもたちに必要な能力が養えると思います。」という声もあります。今後も ICT 教育の活用状況調査や現場の声を通じて、より ICT を活用しやすい学習環境を整備していきたいと考えています。

